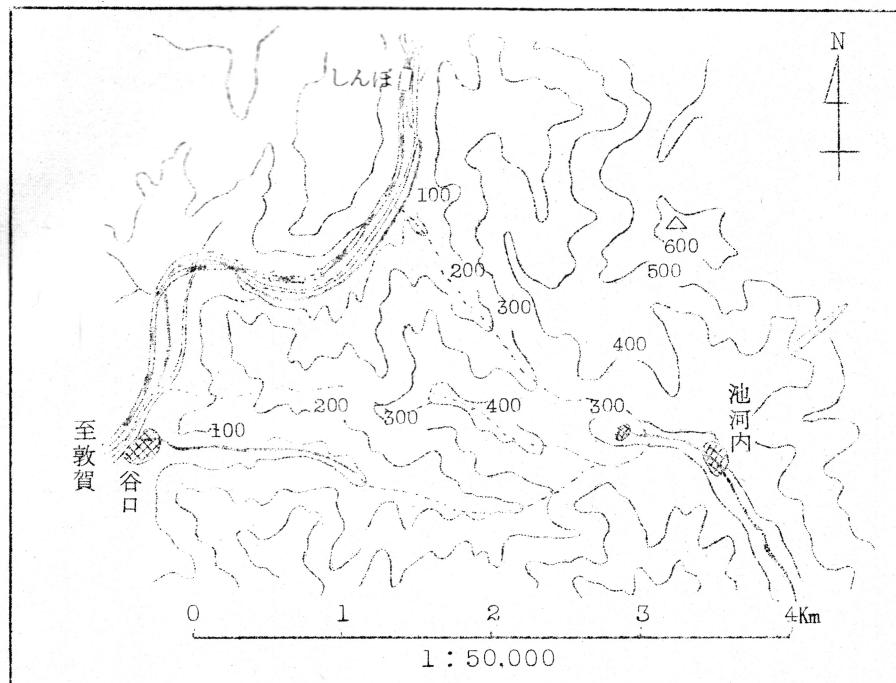


採集記

敦賀市池河地植物採集記



昭和 33 年 5 月 3 日、敦賀市池河内へ本年度第一回の植物採集会を行った。福井発午前 5 時 36 分といふかなり早い出発であるが、参加者は多く、敦賀方面からの人と合せて 56 名であった。

東浦中学、敦賀高校、藤島高校等の生徒の参加もあるので、新保駅下車とともに、駅附近の路傍の植物の採集から始めた。主な採集品は次の如くである。

スズメノカタビラ、スズメノエンドウ、カラスノエンドウ、オウイヌノフグリ、タチイヌノフグリ、ゲンノショウコ、イタドリ、スイバ、ギシギシ、カタバミ、アカカタバミ、クサソテツ、ムラサキケマン、エンゴサク、トキワハゼ、サギゴケ、オヘビイチゴ、カワジサ、サワオグルマ、メノマンネングサ、ウマノアシガタ、

ウマノアシガタの八重咲が 1 株見られたが、これは珍らしい。

鉄道線路に沿って行くうちに、道は木芽川を渡り山道にかかる。一面にツルタガラシの白い花

(採)

が見られて美しい。ラショウモンカズラも紫色の花をつけて見事である。ニシノホンモンジスグ、オクノカンスゲ、ヒゴクサ、カサスケ等のスゲ類も花盛りである。サイゴクミツバツツジも赤紫色花をつけて谷間に散在している。その他の採集品は次の如くである。

ヤブソテツ、ヤマヤブソテツ、ハカタシダ、イワデンダ、イノデ、ツヤナシイノデ、イタチシダ、クマワラビ、ノキシノブ、ゴマギ、ガマズミ、コバノガマズミ、アカネ、ヒメレンゲ、コバノトネリコ、トネリコ、ゴンズイ、イカリソウ、

大分時間をとったので、これからは目的地まで一気に歩く。目ざす湿原についたのは11時半。昼食をとってから湿原の調査をする。

ここは県下で稀な湿原で、浮島状をなし、笛川の水源をなす池は非常に狭められている。水中にはコウホネ、ヒルムシロ、ムツオレグサ等が見られ、水辺にはミツガシワ、ドクゼリ、ショウブ、カキツバタ等がある。湿原はミズゴケを主体とし、この間にヤナギトラノオ、ミズドクサ、モウセンゴケ、ミズギボウシ、ショウブ、カキツバタ、ノハナショウブ、オニナルコスゲ等が多く、ハンノキ、ヤナギ等の木本も見られる。ここで採集品は次の如くである。

コジュズスゲ、ハリスゲ、アゼスゲ、ドクゼリ、タニギキヨウ、ミズドクサ、ヤナギトラノオ、ショウブ、ミズギボウシ、シロネ、オニナルコスゲ、カキツバタ、ヤブデマリ、ヤマネコイメソウ、オウニガナ、マアザミ、コウホネ、ヒルムシロ、ムツオレグサ、ヒメヘビイチゴ、サワオグルマ。

この外にコトンボソウ、ミミカキグサ、ムラサキミミカキグサ、ヤチスギラン、サワトンボ、トキソウ等があるそうだが、早春のため未だ見られなかった。ウキヤガラ、フトイ等は前年のものが枯れたまま残っていた。

今回の調査はまだ早いため、湿原上まで行けたが、夏の頃は一面に生い繁るとなかなか足を踏み入れにくいとのことである。それでも踏みしめる足がいつの間にか沈み泥んこになって採集した。

帰えりは谷口へ出る道をとったが、ここにミカエリソウとテンニンソウの群落が見られた。

谷口は北陸トンネル第一工事場があるので、ここを見学した。

(寒蟬義一記)